

## Dislocation モデルによる上町断層と大阪盆地縁辺断層により形成される基盤構造 Basement configuration of Osaka basin based on dislocation model by Uemachi and surrounding faults

井上 直人<sup>1\*</sup>, 北田 奈緒子<sup>1</sup>, 竹村 恵二<sup>2</sup>

Naoto Inoue<sup>1\*</sup>, Naoko Kitada<sup>1</sup>, Keiji Takemura<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 地盤研究財団, <sup>2</sup> 京都大学地球熱学研究施設

<sup>1</sup>Geo-Research Institute, <sup>2</sup>Institute for Geothermal Sciences, Kyoto University

上町断層は、大阪平野の中心にほぼ南北に伏在する断層である(地震調査研究推進本部, 2004)。長さ約 42km で、断層の東側が西側に乗り上げる逆断層として評価されており、平成 22 年から 3 カ年計画で文部科学省科学技術基礎調査等委託事業「上町断層帯における重点的な調査観測」の対象断層である。本研究は平成 24 年度の研究成果のうち、大阪盆地周辺断層と上町断層との関係を Dislocation モデルから検討した内容について紹介する。

大阪盆地における Dislocation モデルを用いた研究はすでに楠本・他(2001)で検討されている。中央構造線、有馬-高槻構造線を右横ずれの主断層とし、生駒断層、奈良東縁断層、六甲-淡路断層を各構造線端部の 2 次断層として、これらの逆断層が右横ずれ断層の滑り量に対して、2 割程度の変動成分を与えることで大阪盆地の基盤形状によく似た変位パターンを示すことが報告されている。

楠本・他(2001)の考え方を基本として、上記断層に上町断層、大阪湾断層、金剛断層もモデル化し、それぞれパラメータの変化を考え、シミュレーションを実施した。上町断層以外の断層により形成される基盤形状は、南部は地形的にみられる台地状を呈す。これに上町断層の変位を与えることで、北部は全体的に東に傾動した形状や、有馬-高槻構造線沿いにみられる地溝状の形状が得られた。

謝辞 本研究は、文部科学省平成 24 年度科学技術基礎調査等委託事業「上町断層帯における重点的な調査観測」によって行われた結果の一部を引用した。ここに記して謝意を示す。

キーワード: 大阪盆地, 上町断層, ディスロケーションモデル

Keywords: Osaka Basin, Uemachi fault, dislocation model